

2024 三重大学教職大学院

教育学研究科 教職実践高度化専攻



目次

ごあいさつ	1
目 的	2
アドミッションポリシー	2
三重大学教職大学院の特色	3
カリキュラム	4
各コース・分野の概要	5
学修の流れ	6
担当教員一覧	7
修了生の声	8
三重大学教職大学院の概要	9
入試説明会及び入学者選抜の日程	10



模擬授業の様子

ごあいさつ

近年、社会の大きな変容に伴い、学校現場の教育課題も複雑化、多様化してきています。

教師に求められる資質も多岐に及び、教員一人ひとりの専門性と実践力の向上が求められるとともに、「チーム学校」として教職員が連携して多様な課題に取り組んでいけるような環境づくりも重要視されています。

このような社会的要請に対応するべく、本教育学研究科は令和 3 年度にこれまでの二つの専攻（教育科学専攻・教職実践高度化専攻）を統合し、新しい形での教職実践高度化専攻を立ち上げました。この専攻には 2 コース（学校経営力開発コースと教育実践力開発コース）があり、各コースの下にそれぞれ 2 つの分野が開設されています。詳しくは本パンフレットをご参照いただきたいと思います。学校経営力開発コースは学級・学校経営、学習指導方法の開発・改善など、主として教職に重点を置いた学修、教育実践力開発コースは各教科の専門性や指導法に重点を置いた学修を通して、専門性と実践力の深化を目指しています。なお、教育実践力開発コースでは幼児教育、特別支援教育について学修することもできます。また、いずれのコースとも現職教員、学部新卒学生の進学が可能です。

教職実践高度化専攻では、マネジメント能力、課題発見・解決能力、未来を拓く力の育成を 3 つの柱として掲げ、スクールリーダー・ミドルリーダーとなって地域の教育をけん引していく人材の育成をめざしています。そのために研究者教員と実務家教員によるチームサポート体制や問題発見解決型学習（PBL; Problem Based Learning）を取り入れたカリキュラムなど、「理論」と「実践」の両輪で学修を進める工夫を行っています。

日々変化している教育現場の中で抱いた課題を解決したいと考えている方、大学卒業後も教育に関する専門的な研究を進めたい方、学校現場での教職経験を活かしてさらに専門的な深く広い視点からの教育研究を進めたいと願っている方、様々な思いをお持ちの方々が集い、共に学び、議論する、本教育学研究科はそんな砥礪切磋の場でありたいと考えています。教育に対する熱い思いを持ったみなさんを待っています。



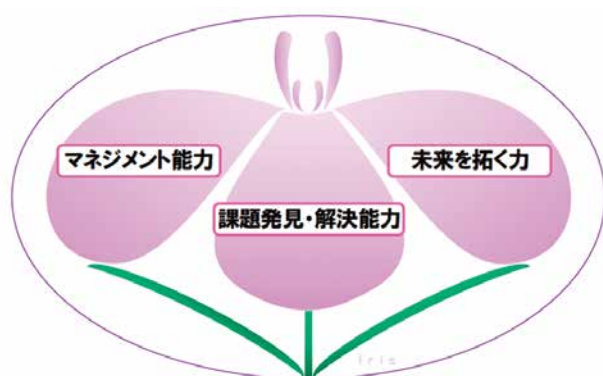
教育学研究科長 伊藤 信成

目的

本教職大学院(三重大学大学院 教育学研究科 教職実践高度化専攻)は、三重県における喫緊の教育課題に取り組むため、学校を変える推進者としてのスクールリーダーとなる現職教員、将来的に地域教育を支えるミドルリーダーとなる資質・力量のある新人教員を養成することを目的とします。

◆ 育成をめざす 3つの力

「マネジメント能力」、「課題発見・解決能力」、「未来を拓く力」の3つの力を備えた、スクールリーダー・ミドルリーダーを育成します。



【マネジメント能力】

組織運営に必要なマネジメント能力のみならず、授業や学級、カリキュラムのマネジメントも含めた、幅広いマネジメント能力

【課題発見・解決能力】

学校や地域にとって「何が本質的に重要な問題か」を見極め、解決していく能力

【未来を拓く力】

自分自身の行動や思考そのものを客観的に見直すことで、教師としてのアイデンティティを再構築し、自信と意欲、高い志を持って学び続け、教職の未来を切り拓いていく力

アドミッションポリシー

ーこのような人を求めますー

学級・学校経営、学習指導方法の開発・改善、生徒指導・教育相談、教育課程、教師教育等における様々な今日的課題の解決、または教科の専門性や特別支援教育、幼児教育の知識・技能の習得による実践的授業力の向上のため、確かな指導理論の構築を目指し、より高度な実践力と応用力を身につけたい人。現職教員においては、学校現場での経験に基づき、教職大学院での明確な研修テーマや課題を持ち、それらを協働で解決し、学校や地域において指導的役割(スクールリーダー)を目指す教員。学部新卒者等においては、学校現場での実習や現職教員学生との協働により、教職に関する実践的な専門性や高度な実践力を身につけたい人。

特に、次の3点を入学者に求めています。

- 【探究】 学校・地域の教育課題をより広い視野で探究できる人
- 【協働】 より柔軟な発想で協働的に学び続けることができる人
- 【創造】 地域の教育の未来を創造することに強い思いを有している人

ー入学者選抜方法ー

教職実践高度化専攻の求める入学者を適正に受け入れるために、小論文および口述試験による選抜を実施する。教育学に関する基礎的な知識と理解については主に成績証明書と小論文を通じて、学校・地域の教育課題に対する意欲・関心・態度については主に学修計画書と口述試験を通じて、総合的に評価・判断する。

三重大学教職大学院の特色

◆ 教員チーム：研究者教員 × 実務家教員、教科 × 教職

異なる専門性を有する研究者教員と実務家教員がチームを組み、協働での授業づくりや実践研究を積み重ねることにより、三重県内の様々な教育課題の解決に寄与する質の高い教育指導を行います。また、教科等に関する専門的知識・技能および基礎的な指導方法・技術を身につけた新人教員、そして、若手教員への指導を担える高い専門性を身につけた教員の養成を目指し、教科専門と教職専門の教員が連携して授業を行うことで、学修効果の向上を図ります。

◆ カリキュラム：理論と実践の融合・往還

本教職大学院のカリキュラムの特徴は、三重県内の様々な教育・地域課題を探究する科目を必修の「中核(コア)科目」として位置づけている点にあります。「中核(コア)科目」には、学校・地域の教育課題についての理解を深め、その解決を図りながら協働で探究していく「長期実習科目」と、学校・地域の教育課題についてグループでのディスカッションを通して探究する「PBL演習科目」があり、これらの授業の往還により、より多角的で広い視野から課題をとらえ、解決の道を探究していきます。

◆ 教育方法：PBL チュートリアル教育

「PBL(Problem/Project Based Learning)チュートリアル方式」とは、少人数グループ毎にチューターを配置して行う問題発見解決型学習です。本教職大学院では、1グループにつき複数の教員をチューターとして配置し、学生同士の多角的な視点からのディスカッションや省察を促し、学修効果をさらに高めることを目指します。

◆ 教職経験の差を活かした学び：現職教員学生 × 学部新卒学生等

本教職大学院では、現職教員学生と学部新卒学生等が同じ授業を履修することになっています。学校現場での教員の学びは、様々なキャリアを有する教員が集合するなかでなされています。その意味では、本教職大学院は学校現場の学びの縮図とも言えます。現職教員学生と学部新卒学生等が互いの強みを活かし、互いに啓発し合う学習者集団となることをねらいとしています。

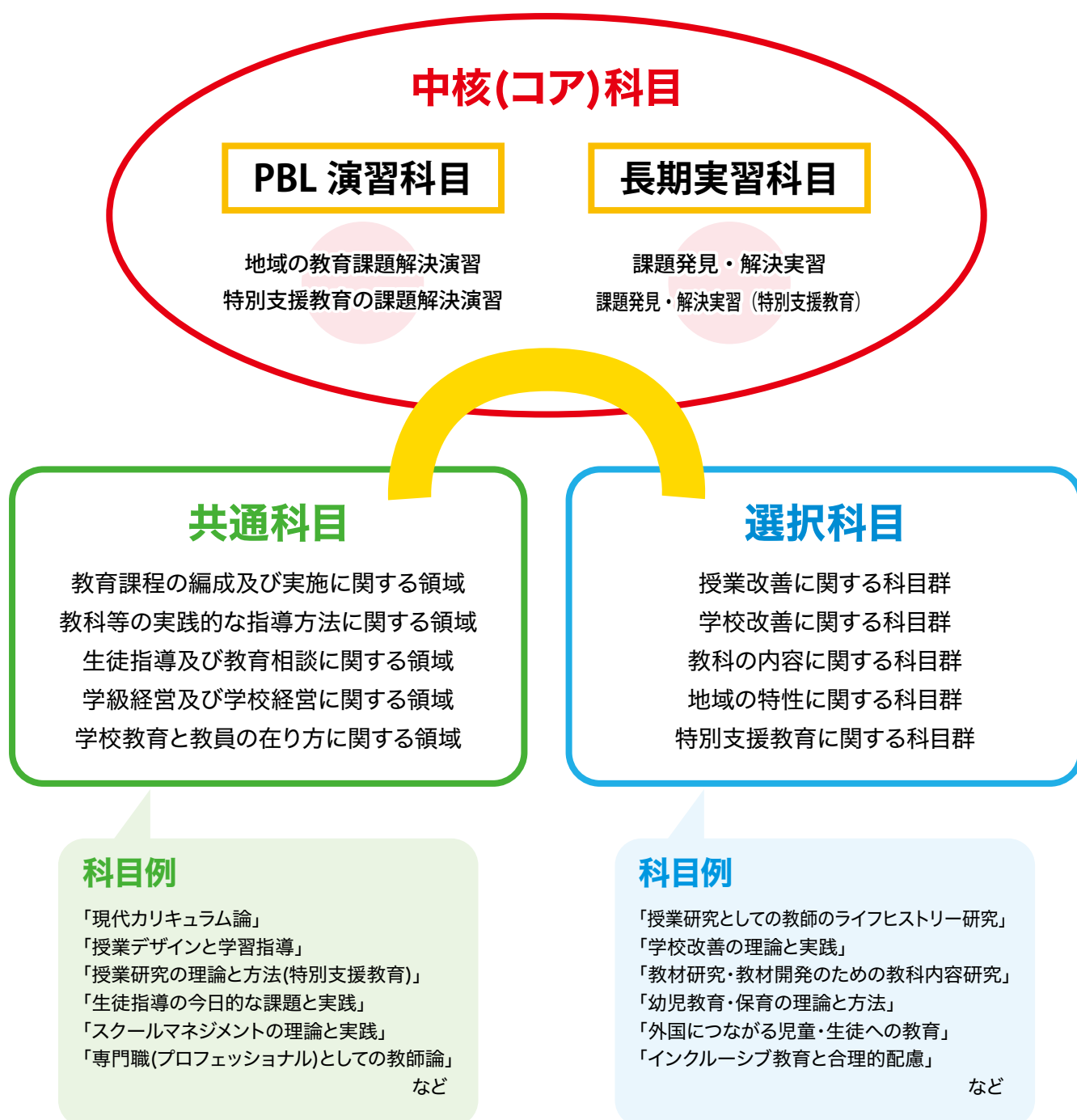
◆ 理論と実践の融合・往還：地域教育への貢献

本教職大学院は、「結果」だけでなく地域教育への「貢献」を目的とし、県・市町教育委員会との連携のなかで地域の教育課題発見・解決を図っていくことを軸としたカリキュラムを編成しています。学生たちは、学術研究の成果(理論知)と学校現場における現象(実践知)とを結びつけながら探究し、修了後に地域の中核を担う教員となっていくことが期待されます。

カリキュラム

◆「3つの力」を保障する多彩な科目群

本教職大学院のカリキュラムは、理論と実践の融合・往還をめざし「3つの力」（マネジメント能力、課題発見・解決能力、未来を拓く力）を形成する「中核（コア）科目」と、その探究を支える基礎的・基本的な知識・技能を習得する「共通科目」、探究の必要に応じて適用可能な知識・技能を習得する「選択科目」から構成されます。



※開講科目は変更となる場合があります。

各コース・分野の概要

◆ 学校経営力開発コース

【経営力開発分野】（現職教員対象）

地域の教育改革を主導するスクールリーダーを育成します

■ 特色

- ・学校経営や教育実践に関する高度な専門性を身につけることができます。
- ・学校や地域の課題を多角的に広い視野から総合的にとらえるとともに、学術的な理論に基づいて解決の方向性を探究することで、実践力を高めることができます。

【学習開発分野】（学部新卒者等対象）

多様で複雑な教育課題に対応できる人材を育成します

■ 特色

- ・学級づくり、授業づくりなどの教職科目についてより深く学び、教育実践に関する高度な専門性や実践力を身につけた上で教壇に立つことができます。
- ・実習で得た経験を、学術的な理論に照らして意味づけるだけでなく、その専門分野に限らず幅広い視野からとらえることにより、学修テーマを探究することができます。

◆ 教育実践力開発コース

【教科教育高度化分野】（現職教員・学部新卒者等対象）

高度な教材開発力と授業力を持つ人材を育成します

■ 特色

- ・各教科の教育実践に関する高度な専門性を身につけることができます。
- ・教科の教育内容と指導法とが有機的に結びついた学修を進め、最新の研究成果に基づいた知識と技能を、教育現場の要求に対応させながら獲得します。

【特別支援教育分野】（現職教員・学部新卒者等対象）

特別支援教育に関する高度な専門性を持つ人材を育成します

■ 特色

- ・特別支援学校の運営や、学校間連携、教育と医療、福祉、労働等との連携に関する高度な専門性を身につけることができます。
- ・特別な支援を必要とする幼児児童生徒やその保護者に対して、個人と環境の相互関係の視点に基づいた適切な支援を行うことのできる力を培うとともに、多様性を認め合い、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育のあり方について探究することができます。

学修の流れ

◆ 現職教員学生

■ 授業および実習内容

1年次は、基本的に大学院での授業が中心となります。10月には、10日間の東紀州地域における実習、2週間～4週間の県内連携協力校での実習があります。特別支援教育分野では、20日間の県立特別支援学校あるいは小中学校特別支援学級での実習があります。実習では、連携協力校の要望を踏まえつつ、自らの問題意識や研修テーマと関連した協働的・実践的な研修を行っていきます。

2年次は、現任校を拠点として、チームで学校の課題発見・解決に取り組み、実践的な研究をさらに深めていきます。1週間のうち2.5日が現任校勤務、0.5日が現任校での実習、2日が大学院での授業となります。

■ 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	共通・選択科目								共通・選択科目			
	地域の課題解決演習Ⅰ 特別支援教育の課題解決演習Ⅰ								地域の課題解決演習Ⅱ 特別支援教育の課題解決演習Ⅱ			中間報告会Ⅰ
							長期実習	実習報告会				
2年次	共通・選択科目				中間報告会Ⅱ				共通・選択科目			成果報告会
	地域の課題解決演習Ⅲ 特別支援教育の課題解決演習Ⅲ								地域の課題解決演習Ⅳ 特別支援教育の課題解決演習Ⅳ			
	長期実習(現任校)							長期実習(現任校)				

※スケジュールは変更されることがあります。

◆ 学部新卒学生等

■ 授業および実習内容

1年次は、毎週水曜日が実習日となり、附属学校等において実習を行いながら、自らの学修テーマを探究していきます。それ以外の曜日には大学院での授業に参加し、実習での経験を意味づけながら各科目について学んでいきます。

2年次も、毎週水曜日が実習日となり、県内連携協力校の活動に参画しながら学修テーマをめぐる課題の解決を目指す取り組みを行います。10月には東紀州地域での10日間の長期実習を行うこともできます。特別支援教育分野では、20日間の県立特別支援学校等での実習があります。

■ 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	共通・選択科目								共通・選択科目			中間報告会Ⅰ
	地域の課題解決演習Ⅰ 特別支援教育の課題解決演習Ⅰ								地域の課題解決演習Ⅱ 特別支援教育の課題解決演習Ⅱ			
			長期実習					長期実習				
2年次	共通・選択科目				中間報告会Ⅱ				共通・選択科目			成果報告会
	地域の課題解決演習Ⅲ 特別支援教育の課題解決演習Ⅲ								地域の課題解決演習Ⅳ 特別支援教育の課題解決演習Ⅳ			
	長期実習					長期実習		実習報告会	長期実習			

※スケジュールは変更されることがあります。

担当教員一覧

■ 専任教員

※専任教員、兼任教員は予定であり、変更となる場合があります。

職 名	名 前	専門分野等
特 任 教 授	市川 則文	学校づくり 授業づくり
教 授	織田 泰幸	教育経営学 学校組織論
教 授	須曾野仁志	教育工学 eラーニング
特 任 教 授	瀬戸 健一	生徒指導論 学校心理学
准 教 授	園部友里恵	教師教育学 表現教育
教 授	田中 里佳	教育方法 教師教育
教 授	中西 良文	学習心理学 協同教育
准 教 授	橋本 幸郎	学校運営 学級づくり
准 教 授	前原 裕樹	教育方法 カリキュラム開発
准 教 授	松本 栄	学級経営 授業づくり
特 任 教 授	松本 裕子	学校経営 生徒指導
特 任 教 授	山本 潔**	学校運営 生徒指導
特 任 教 授	西村 哲二*	学校運営 健康教育
特 任 教 授	大原 喜教*	学校運営 特別支援教育
特 任 教 授	伊藤 利治*	学校運営 生徒指導
特 任 教 授	溝口 宏彦*	学校運営 生徒指導
特 任 教 授	小山 和彦*	南部地域教育支援 授業づくり
特 任 教 授	萩野 真紀*	南部地域教育支援 授業づくり
教 授	杉澤久美子*	附属幼稚園 園長 園運営・幼児教育
准 教 授	山本 嘉*	附属小学校 校長 学校運営・危機管理

職 名	名 前	専門分野等
教 授	山口 勉*	附属中学校 校長 学校運営・生徒指導
教 授	中川 克巳*	附属特別支援学校校長 学校運営・特別支援教育
教 授	守田 庸一	国語科教育 教材開発
教 授	石川 照子	社会科教育学 教師教育学
特 任 教 授	中西 正治	数学教育学 数学教育史
教 授	田中 伸明	数学教育学 教科教育学
講 師	杉澤 学	理科教育 自律的・探究的学習論
教 授	川村 有美	音楽教育学 教材開発
教 授	上山 浩	美術科教育 教材開発
教 授	岡野 昇	保健体育科教育 学校教育学
教 授	魚住 明生	技術科教育 教材開発
准 教 授	瀧日 滋野	家庭科教育 保育学
教 授	荒尾 浩子	英語教育 学習者論
教 授	富田 昌平	幼児教育 幼児心理学
教 授	松浦 直己	特別支援教育 (医学)
教 授	菊池 紀彦	特別支援教育 (心理学)
教 授	郷右近 歩	特別支援教育 (心理学)
准 教 授	栗田 季佳	特別支援教育 (教育学)
准 教 授	森 浩平	特別支援教育 (教育学)

* 指導教員としての指導（学修成果報告書の作成指導）には当たりません。

** 副指導のみ担当します。

■ 兼任教員

国 語：松本昭彦(国文学)、余 健(日本語学)、林 朝子(書道)、和田 崇(国文学)、服部明子(日本語教育)
 社 会：藤田達生(日本史)、大坪慶之(東洋史)、秋元ひとと(哲学)、宮岡邦任(自然地理学)、馬原潤二(政治学)、内田秀昭(経済学)
 数 学：中村 力(代数学)、小林和志(幾何学)、森山貴之(幾何学)、川向洋之(解析学)、肥田野久二男(解析学)、
 玉城政和(応用数学)、萩原克幸(応用数学)
 理 科：後藤太一郎(動物学)、平山大輔(植物学)、國仲寛人(物理学)、市川俊輔(生化学)、伊藤信成(天文学)、栗原行人(古生物学)
 音 楽：上ノ坊航也(声楽)、小畑真梨子(ピアノ)、森川孝太郎(作曲)
 美 術：山口泰弘(美術史)、岡田博明(デザイン)、関 俊一(絵画)、奥田真澄(彫刻)
 保健体育：八木規夫(運動学)、後藤洋子(運動学)、富樫健二(運動生理学)、大隈節子(体育・スポーツ学)、水藤弘史(運動学)、
 笹山健作(学校保健)、加納岳拓(保健体育科教育)
 技 術：松岡 守(電気)、松本金矢(機械)、中西康雅(材料加工)、山守一徳(情報)
 家 政：平島 円(食物学)、村田晋太郎(家庭経営学)、横山真智子(被服学)
 英 語：西村秀夫(英語学)、中川右也(英語教育学)、金子 淳(英語文学)
 学校教育：瀬戸美奈子(学校臨床心理学)、伊藤敏子(教育哲学)、南 学(教育心理学)、大日方真史(教育方法学)
 幼児教育：吉田真理子(保育内容)、水津幸恵(幼児教育)

修了生の声 ～教職大学院での学びを振り返って～



阪本 明士

学校経営力開発コース 経営力開発分野 修了
(現職教員学生として在籍／高等学校教諭)

この2年間の大きな財産は、学びを通して得た「人との出会い」でした。先生方、同期生の仲間、研究を通じて知り合った方々などから多くの刺激と気づき、勇気をいただきました。本来、学びは厳しいものでなければならぬと考えています。しかし、一人ではなかなかできないものです。背中を支え、時には押してくれた方々に感謝いたします。次は自分が子どもたちを支えなければいけないと思っています。



若林 徳亮

教育実践力開発コース 教科教育高度化分野 修了
(現職教員学生として在籍／小学校教諭)

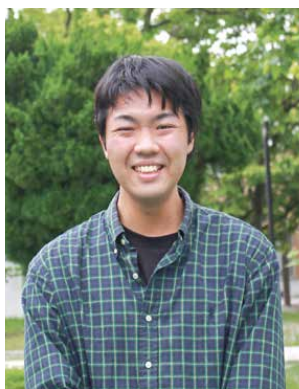
2年間は、正解のない問いを考える時間でした。ただ一つの正解を探すのではなく、仲間とともに一つの実践や一つの出来事に向き合うこと、その中で自分の枠を更新していくこと。実践のおもしろさと教育の奥深さを頭と心と身体で体験できました。同期の皆でそのような時間を過ごすことができたことが大きな財産です。これから大学院生でなくなっても続けていくことを課題としたいです。



鈴木 理奈

学校経営力開発コース 学習開発分野 修了
(学部新卒学生として在籍／2023年度より中学校教諭)

私は「科学的に探究する力と態度を確実に育成する授業」について学びたいと考え進学しました。教職大学院で理論的な知識と学校現場での実践を融合させながら学ぶことにより、自身の「教育観」を様々な角度から見つめ直すことができました。この経験を積み重ねることにより、教師として教壇に立つ自信を持つことができました。ここで学んだことを活かして、これから現場での実践に励んでいきます。



森井 集也

教育実践力開発コース 特別支援教育分野 修了
(学部新卒学生として在籍／2023年度より特別支援学校教諭)

教職大学院での2年を経て、より明るく、自然に子どもたちと関わるできるようになったと感じます。明るく、という点では子どもたちと日々関わりを重ねられたことが理由だと考えます。実習や、ボランティア等で現場に行く機会が多くあり、有意義な時間を過ごせました。また自然に、という点では子どもの反応が理論に則って整理できる場面が増えたことが理由だと考えます。来年度以降も、実践に関わりながら理論を学び続けていきます。

三重大学教職大学院の概要

■ 名 称

大学院教育学研究科教職実践高度化専攻

■ 課 程

専門職学位課程

■ 入学定員

25 名（ただし、三重県教育委員会から派遣される現職教員学生は 10 名）

■ 費用等

入学料 282,000 円（予定額）

授業料（年額） 535,800 円（予定額）

■ 標準修了年限

2 年（長期履修制度については、学生募集要項をご覧ください。）

■ 修了要件

- ・「共通科目」「中核（コア）科目」「選択科目」から合計 46 単位以上の習得
- ・「学修成果報告書」の作成・提出

■ 学 位

教職修士（専門職）

■ 取得できる免許状

取得可能な教育職員専修免許状は下表のうち、入学時までに有している一種免許状と同じ校種・教科です。ただし、所属する分野によっては、修了に必要な単位以上の科目を履修する必要がある場合があります。その他、免許の取得については個別にご相談ください。



幼稚園教諭専修免許状	
小学校教諭専修免許状	
中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、韓国・朝鮮語、宗教
高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、韓国・朝鮮語、宗教
特別支援学校教諭専修免許状*	知的障害者、肢体不自由者、病弱者（身体虚弱者を含む。）

*教育実践力開発コース特別支援教育分野に所属する者のみ取得可能

入試説明会及び入学者選抜の日程

◆ 入試説明会

入試説明会では、本教職大学院の特色、カリキュラム、実際の学修生活、入学者選抜の方法などについて説明するほか、担当教員が直接皆さんの質問にお答えいたします。なお、入試説明会の参加には、事前申込が必要です。

日時

第1回 令和5(2023)年 5月28日(日)13:00～15:00

第2回 令和5(2023)年 9月 3日(日)13:00～15:00

実施方法

オンライン

Zoomを使用します。参加申込いただいた方に、ZoomのURLを記した招待メールをお送りします。

参加申込方法

●参加希望回の5日前までに、下記の申込フォーム(Google Forms)へのご記入をお願いします。

<https://forms.gle/LFFxSn45t9N18UQHA>

●お申込いただいた方には、開催日の3日前に、Zoomの招待メールをお送りします。



申込フォーム

さらに詳しい内容や入試情報については、本学のホームページ、学生募集要項等をご覧ください。

◆ 令和6(2024)年度 入学者選抜

令和6(2024)年度入学者選抜の日程は下記の通りです。詳細は、募集要項、本学のホームページなどでお知らせします。

会場:三重大学教育学部

受験者区分	【A日程】 2023年 8月18日(金)	【B日程】 2023年 10月29日(日)	【C日程】 2024年 2月10日(土)
現職教員	第一次	(第二次)	
学部新卒者等	第一次	第二次	(第三次)

※表中の(第二次)(第三次)と表記された選抜は実施されない可能性があります。実施されない場合は、本学教育学部・教育学研究科のホームページなどでお知らせします。

※学部新卒者等において、三重県の教員採用選考試験に合格し、採用候補者名簿への登載を2年間猶予希望の者は、B日程までに受験し、合格することが求められます。なお、他の都道府県等における採用猶予については、各自で各自治体の教員採用担当にご確認ください。



教職大学院院生自習室



教職支援センター館内

アクセス

■ 鉄道

近鉄急行

名古屋－江戸橋 約 60 分

伊勢中川－江戸橋 約 15 分

近鉄特急

名古屋－津 約 50 分

なんば－津 約 90 分

京 都－津 約 110 分

(津で急行または各駅停車に乗り換え)

津－江戸橋 約 2 分

JR 快速みえ

名古屋－津 約 50 分

■ 津駅から

津駅東口バスのりば「4 番」から三重交通バスで、
「白塚駅」(06 系統)、「三重病院」(51 系統)、
「棕本(むくもと)」(52 系統)、「豊が丘」(52 系統)、
「サイエンスシティ」(52 系統)、「東豊野」(53 系統)、
「高田高校前」(56 系統) 行きで、「三重大学前」下車。

■ 江戸橋駅から

徒歩約 15 分

■ 中部国際空港(セントレア) から

津エアポートラインで「津なぎさまち」へ約 40 分

「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約 15 分



お問い合わせ先

■ 大学院全般、学生募集等に関するお問い合わせ先

三重大学教育学部 学務担当

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

TEL 059-231-9319 【電話によるお問い合わせは平日(8:30～17:15)のみ】

FAX 059-231-9352 E-mail edu-gakumu@ab.mie-u.ac.jp

■ 本教職大学院に関するお問い合わせ先

三重大学教職大学院

E-mail info-mkd@edu.mie-u.ac.jp